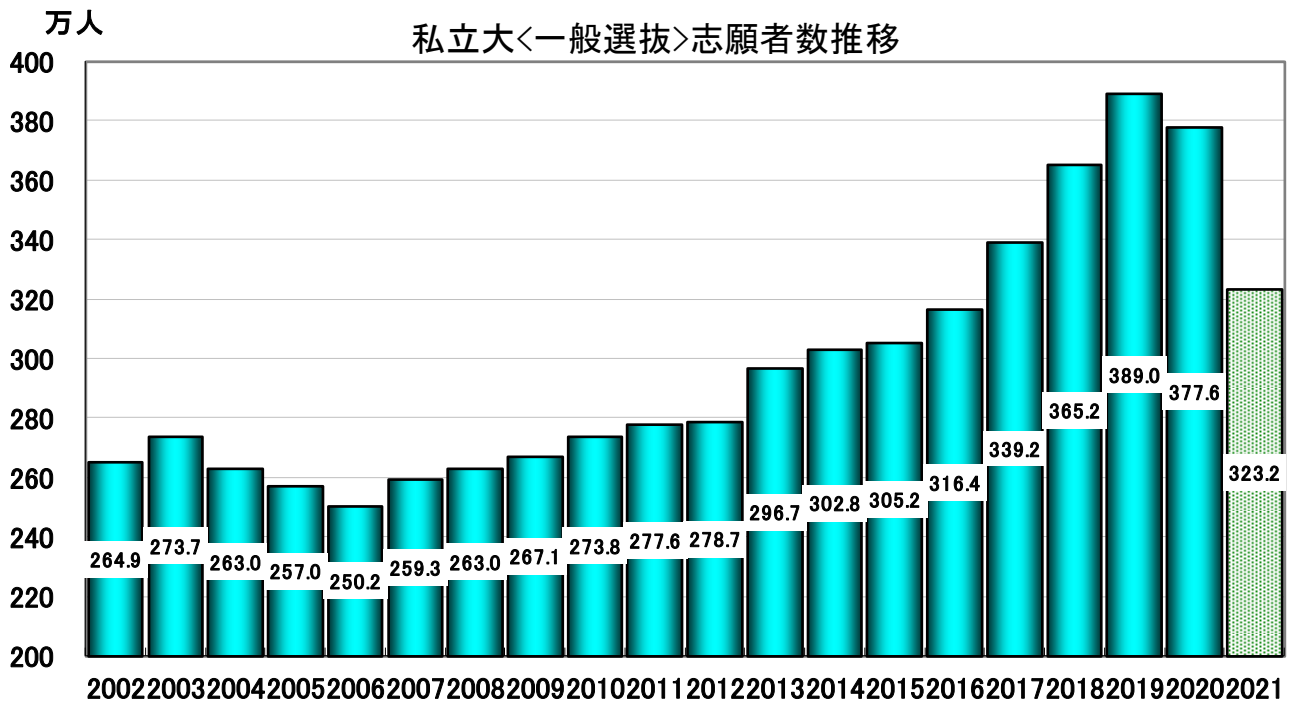


## 2021 年度入試状況分析【私立大】

本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

### 志願状況全体概況

延べ志願者数は14%以上減少、2016年度志願者数を約7万人上回る程度と予想



2020年度までは、文部科学省発表数値。2021年度は駿台による525大学集計による推定値。年度

〔私立大志願者数推移〕

上のグラフは、私立大一般選抜の延べ志願者数の推移を表したものです。2020年度までは文部科学省の発表数値、2021年度は駿台で志願者数が確定した募集単位を集計した私立大525大学の一般選抜(学校推薦型選抜・総合型選抜等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数をもとに推定した志願者数です。

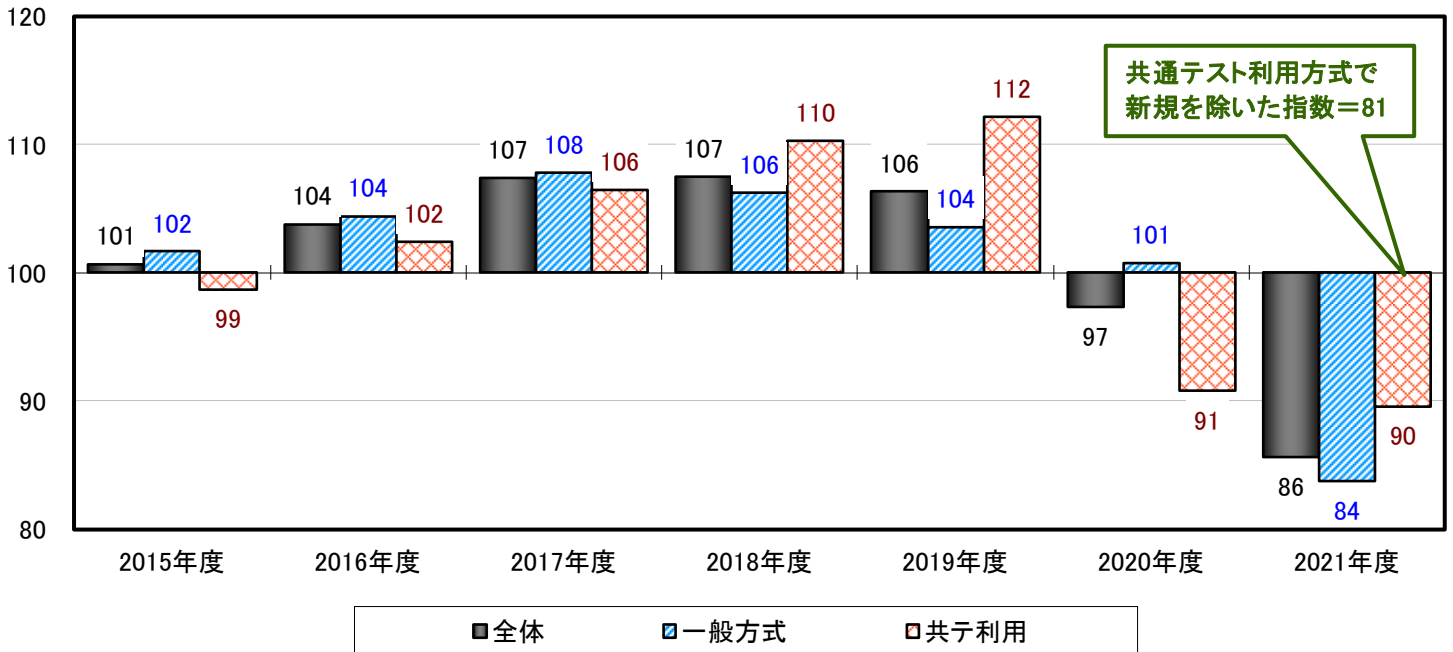
駿台で集計した525大学の一般選抜の延べ志願者数は、約322万人(86)で前年度より約14%以上減少しました。この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は14年ぶりに減少した前年度から2年連続減少で、14%以上減少することが見込まれ、323万人余りとなり、2016年度の志願者数を約7万人上回る程度になったことが予想されます。この志願者数減少の背景には、以下の4点の要因が考えられます。

- (1) 2020年度入試において、2021年度入試から予定されていた大規模な入試改革への不安(結果的には先送りとなったが、その発表時期が11月以降と遅かった)、これに入試時期から感染拡大が始まったコロナ禍への不安も加わり、かつてない弱気な出願となり、2020年度入試での大学進学を決めた受験生が多く、予想を超える既卒受験生の大幅減少があった。
- (2) 継続するコロナ禍の影響により、経済環境の悪化に加えて、地方在住者の感染への不安や対面授業の再開が不透明なことによる都市部の大学への進学の敬遠などから、1人あたりの併願校数が減少した。
- (3) センター試験に代わり導入された共通テストの出題内容・難易レベルへの不安から共通テスト利用方式の志願者数が減少した。
- (4) コロナ禍による厳しい経済環境や海外渡航制限の影響を強く受けている外国語系、経済・経営・商学系、国際関係系といった文系の系統への人気低下し、文系定員の占める割合が大きい私立大の志願者数減少が拡大した。

## 2021年度入試状況分析【私立大】

一般方式は16%減少、共通テスト利用方式は2年連続減少、新規を除くと大幅減少  
 [私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数]

私立大一般選抜志願者数 前年対比指数推移(方式別6ヶ年比較)



上のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

この入試方式別では、一般方式(84)が16%減少したのに対して、共通テスト利用方式(90)は、前年度までのセンター試験利用方式と比較すると2年連続減少ですが、10%の減少に留まりました。しかし、これは早稲田大・政治経済、国際教養、スポーツ科学、青山学院大・経済除く、上智大などで多くの募集単位を一般方式から共通テスト併用方式に変更した影響が大きく、前年度から継続する募集単位のみを集計では(81)と一般方式よりも減少率は大きくなりました。これは、共通テスト実施前に出願を締め切った「事前出願」の募集単位では、センター試験から共通テストへの移行に伴い、出題形式の変化や難化予想に対する敬遠により、また共通テストの実施後に出願可能な「事後出願」の募集単位では私立大文系3教科型(国語、地歴・公民、英語)の平均点大幅ダウンにより、それぞれ志願者数が減少した影響によるものです。